

Day

2

タイトル

5. アフリカにおける廃棄物管理に関する事例及び知見の共有  
横浜市からのコメント／提案

発表者

横浜市 資源循環局適正処理計画部処分地管理課 課長 立花千恵

要約

発表者は、横浜市の廃棄物管理システムの歴史と最終処分場について、以下のとおり紹介した。横浜市では経済発展と人口の急増に伴うごみ処理の社会問題化を背景に、市民の環境意識が高まった。1971年に廃棄物処理法が施行され、ごみ飛散防止フェンスの設置、浸出水の浸透防止、臭気防止対策などの環境に配慮した埋め立てコンセプトが導入された。横浜市は、さらに埋立処分場の品質を一層向上させるため、規則を整えた。

南本牧最終処分場は、2011年以来、横浜で唯一の最終処分場であり、2017年10月からは、第5ブロックが稼働している。第5ブロックは面積が18ヘクタール、容積が400万m<sup>3</sup>で、建設コストは約5億ドル(約610億円)を要した。